

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



「口ぐせリセット」

大嶋 信頼

言葉をちょっと変えるだけで、全部がコロッと好転します。

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



「あしたも、こはるびより」

つばた英子、つばたしゅういち 著

83歳と86歳の老夫婦の暮らし歳時記。簡素だけど、とても優雅な歳時記です。

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

長島文芸

Nagashima Bungai ながしまぶんげい

明神俳句会

天草へ潮目真青に鶴帰る
れんぎようの枝奔放に風鳥忌
百歳の編みし手籠に春菜摘む
北へ発つ鶴を惑はず戻り寒
草千里馬の尻にも春の風
もう誰も応へぬ生家梅匂ふ
大根の琥珀をくずしひとりの餉
春寒や鉄骨の鳥渡谷駅
水温む寺に置かれし手水鉢
里川のせせらぎ春の動き出す
春雪や嬰のやわ肌の白さなり
姦しく恋猫の急ぐ昼仕舞

淵脇 護
迫口 君代
大堂 早苗
白男川孝仁
脇田 武志
二階堂妙子
山寄加代子
大堂 光幸
関 佳代美
大堂 正弘
坂口 静子
山田 哲夫

創世短歌会

送葬の花に埋もれし友の顔瘡病む我は幾度もそぐく
竹之内重信
なすすべもなく変えられてゆく国に八十我は膨ら
みている
宮元 司
曖昧にかなしむことに慣れ始め唐揚げ弁当買い来
て食めり
野村 益信
うらうらと陽のさす庭を眺めてふと作業衣の夫
の影たつ
大塚 洋子
一陣の風に木の葉が舞い上りふいにそのまま飛ん
で行きたし
村上 義彦
会いたさか淋しさなのか月までの段をひたすらの
ぼりゆきたし
石原百合子
腐らしてならぬレタスを朝晩に声かけながらひと
り食べおり
山下 学

長島短歌会

竹林にいち陣の風吹き通りわが行く片へ雪煙りたつ
米尾 和子
やうやくに米寿の坂を越えしわが現をしづかに労
りてをり
坂之下典子
久びさに雲ひとつなき中天の眩しき太陽庭に仰げり
中山タマエ
早春の海を航跡白く分け漁船が今しも夕港入る
濱田美代子
吾の背で「雀の学校」歌ひし息子いま白衣着て往
診に来ぬ
浜畑 松枝
凍みる朝独りの雑事急ぎ終えグランドゴルフへ坂
を上れり
岩下 ち江
春といえど冷えびえと染む里の風景堺なる北の涯
の鳥
岩下 房代
入日映ゆる海面は黄金に輝きて水平線より長島つ
なぐ
榎平 頼子

一般作品

〔短歌〕
センセイと駆け寄る児童らに目を細め照れども
嬉し我は七十路ぞ
小林 如月
土手に咲く水仙白く清しくて寒風受けてしなやかに揺る
小川 貢
春の夜は早や明るるらしほのぼのと朝の光の眩し
さうれし
中飯屋辰子
ポロリンと落ちし涙も懐かしき横に滲んでゆき止
まる今
母木 良平
人生は若き時だけ何成らぬ人の手を取り世を去る
ばかり
町田 末則
〔俳句〕
白梅の今を盛りと咲きほこるかな
宗方 枕流